

《在宅医療の推進について》

【調査の目的】

昨今、医療へのニーズが多様化する中で、療養場所についても、従来の「病院」だけでなく、様々な希望を持たれる方が増えてきています。

県では、末期がんの患者さんなど医療の必要性が高い方でも、自宅や施設などの望んだ場所で安心して療養できるように、生活に密着した医療を提供できる体制づくりを行っているところです。

そこで、皆様のご意見をお聴かせいただき、今後の施策の参考にさせていただきます。

(保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課)

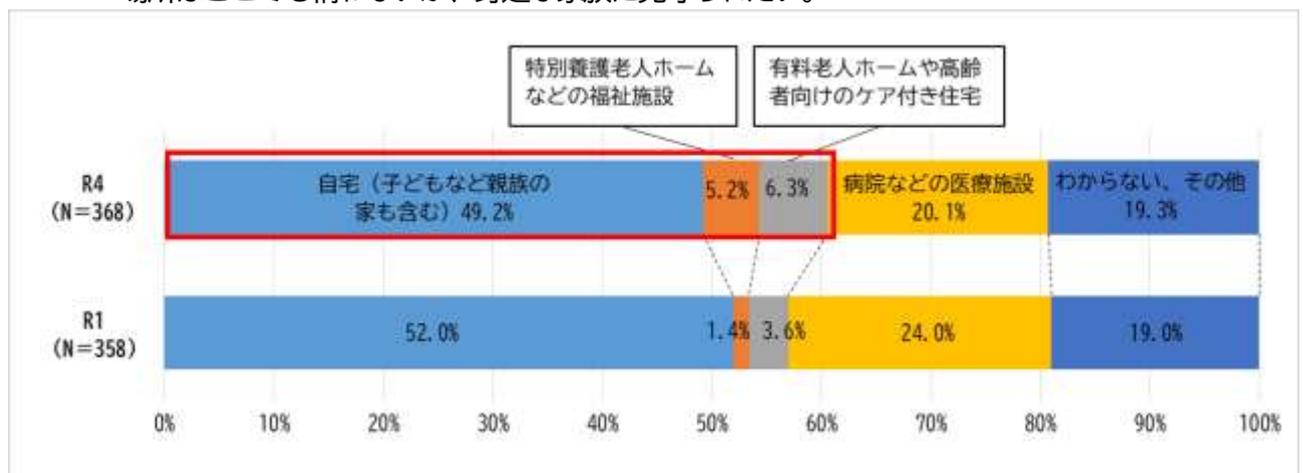
【問1】 治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいか。

(N=368 選択は1つのみ)

1 自宅（子どもなど親族の家も含む）	49.2%	181人
2 特別養護老人ホームなどの福祉施設	5.2%	19人
3 有料老人ホームや高齢者向けのケア付き住宅	6.3%	23人
4 病院などの医療施設	20.1%	74人
5 わからない	16.6%	61人
6 その他	2.7%	10人

6 その他（抜粋）

- ・ 終末ケアをしてもらえる施設を希望する。
- ・ 自宅に居たいが、家族に迷惑がかかる状態なら病院でいい。
- ・ ホスピスなど終末期医療やこころのケアが先にある施設。
- ・ 場所はどこでも構わないが、身近な家族に見守られたい。

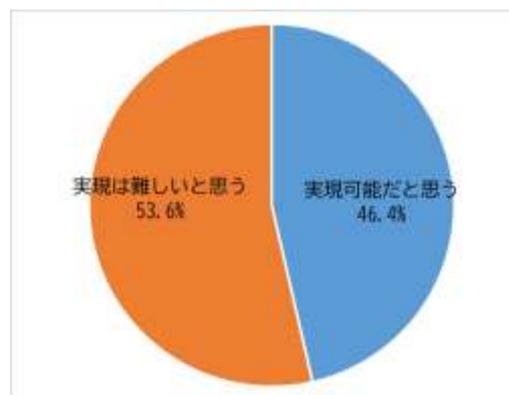


- 全体では、「自宅」で最期を迎えたいと回答した方が半数程度を占めている。
- 令和元年度と比べると、自宅や福祉施設など、いわゆる在宅での最期を希望されている方が増えてきていることが分かる。

【問2】（※ 問1で「1（自宅）」と回答された方のみ）最期まで自宅で過ごすことは、実現可能だと思うか。

(N=181 選択は1つのみ)

1 実現可能だと思う	46.4%	84人
2 実現は難しいと思う	53.6%	97人



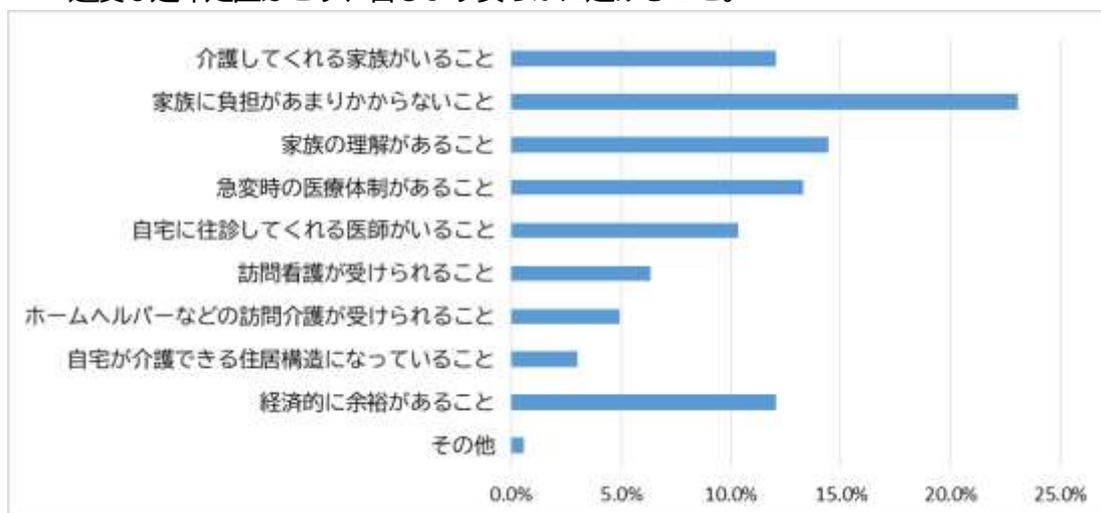
【問3】『治る見込みがない病気で余命が限られているのなら、住み慣れた自宅で最期を過ごしたい』という意見があるが、そのためにはどのような条件が必要か。

(N=368 3つまで選択可 回答件数1,055)

1 介護してくれる家族がいること	12.0%	127人
2 家族に負担があまりかからないこと	23.0%	243人
3 家族の理解があること	14.4%	152人
4 急変時の医療体制があること	13.3%	140人
5 自宅に往診してくれる医師がいること	10.3%	109人
6 訪問看護が受けられること	6.4%	67人
7 ホームヘルパーなどの訪問介護が受けられること	4.9%	52人
8 自宅が介護できる住居構造になっていること	3.0%	32人
9 経済的に余裕があること	12.0%	127人
10 その他	0.6%	6人

10 その他（抜粋）

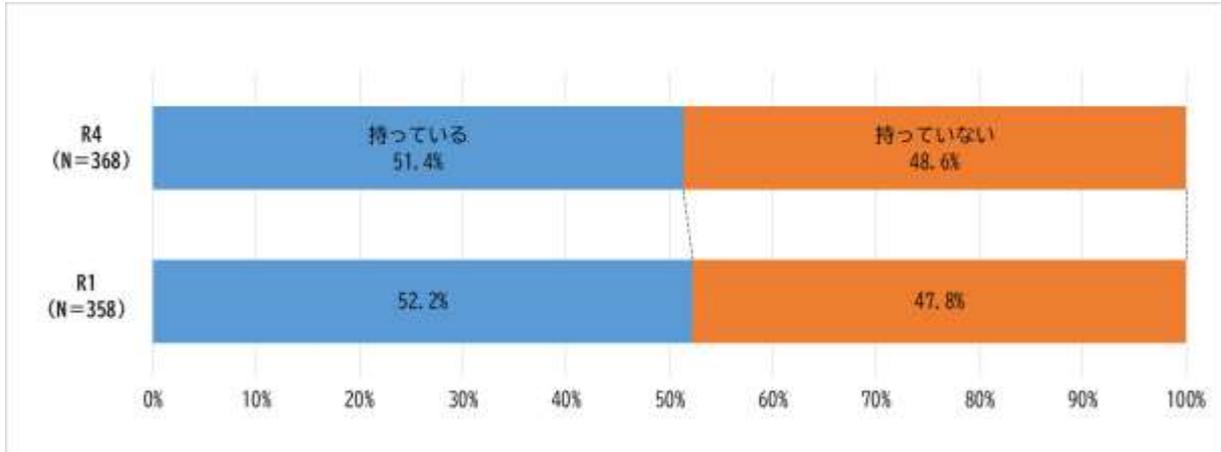
- ・ 社会全体が「自宅で最期を過ごす」ことが当たり前という前提で家庭、医療体制が整っていること。
- ・ 遺体の処理を円滑にできること。
- ・ 自宅で痛みや呼吸困難に苦しまないこと。
- ・ 過度な延命処置はせず、苦しまず安らかに逝けること。



【問4】かかりつけ医を持っているか。

(N=368 選択は1つのみ)

持っている	51.4%	189人
持っていない	48.6%	179人

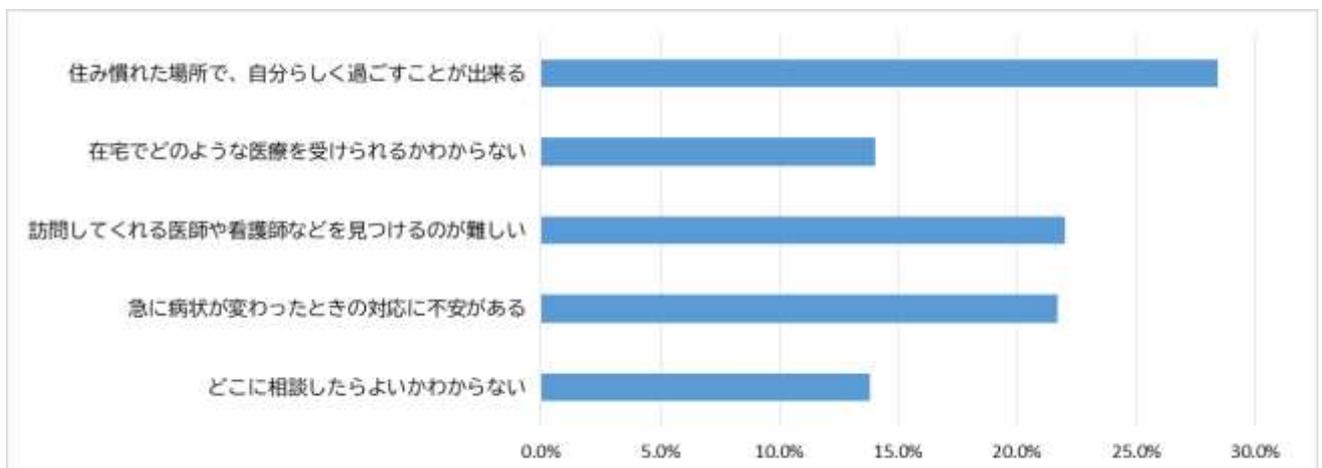


【問5】在宅医療 ※ に対して、どんなイメージを持っているか。

※ 「在宅医療」とは、病院への通院が困難で自宅や施設での療養を希望する方のために、医師による訪問診療の他、医師の指示のもと、看護師・理学療法士・管理栄養士・歯科医師・薬剤師などの専門職種が連携し自宅等を訪問して専門的サービスを行うもの。

(N=368 複数回答可 回答件数 890)

1 住み慣れた場所で、自分らしく過ごすことが出来る	28.4%	253人
2 在宅でどのような医療を受けられるかわからない	14.0%	125人
3 訪問してくれる医師や看護師などを見つけるのが難しい	22.0%	196人
4 急に病状が変わったときの対応に不安がある	21.7%	193人
5 どこに相談したらよいかわからない	13.8%	123人

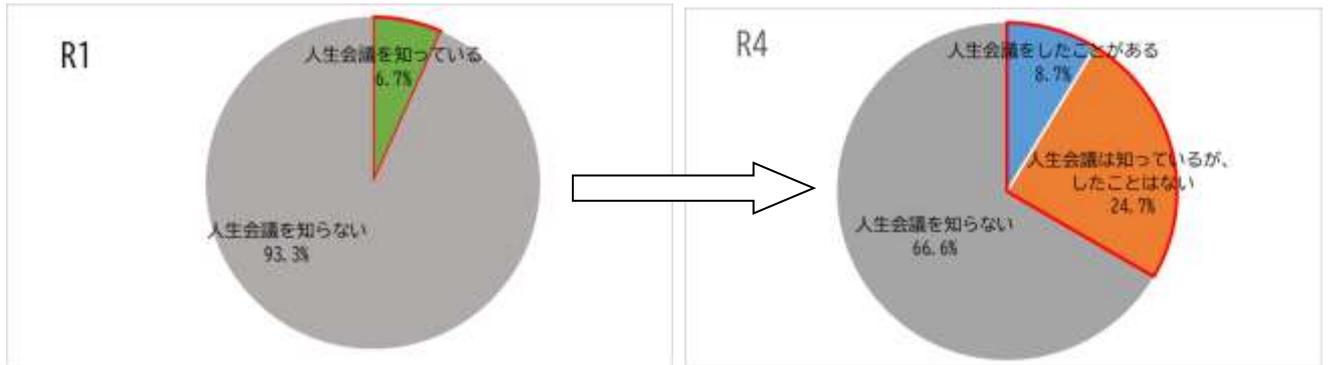


【問6】 人生会議 ※ を知っているか。また、したことはあるか。

※ 「人生会議」とは、もしものときのために、大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、家族や親しい人、医療やケアチームの人たちと話し合い、共有する取組のこと。「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」ともいう。

(N=368 選択は1つのみ)

1	人生会議をしたことがある	8.7%	32人
2	人生会議は知っているが、したことはない	24.7%	91人
3	人生会議を知らない	66.6%	245人



- 「人生会議をしたことがある」または「人生会議は知っているが、したことはない」と回答した方が約3割となっており、「人生会議を知らない」と回答した方が、約7割を占めている。
- 令和元年度と比べると、「人生会議を知っている（人生会議をしたことがある、人生会議は知っているがしたことはない）」と回答した方が、約3割増加しており、人生会議が普及されつつあることが分かる。なお、「人生会議をしたことある」と回答した方が、1割未満であるため、その実施の普及が課題である。

【問7】 在宅医療の推進についての意見

主な意見（抜粋）

（費用）

- ・ 医療費増大の懸念がある。入院との比較が必要だと思う。
- ・ 医療費がひっ迫する中で、在宅での医療費負担が益々増えていくことにとっても不安を感じる。
- ・ 在宅医療について条件、費用などを詳しく知りたい。

（家族の負担）

- ・ 介護離職という言葉があるように、在宅医療は同居する家族には、とても負担が重いことが課題だと思う。
- ・ 家族の負担が重すぎるのではないかと心配。
- ・ 家族の負担になりすぎないような仕組みがあれば、自宅で過ごしたいと思う。

（急変時の対応）

- ・ 高齢化社会が進む中、在宅医療の必要性はあると思うが、ネットの活用などにより、瞬時に対応できる体制を構築してほしい。
- ・ 1人暮らしなので、自宅というより、施設に住む方が友人もでき、寂しくなく、急変時にも対応してくれる気がする。
- ・ 救急診療体制をこれまで以上に厚くしていく必要があると思う。

(人生会議)

- ・ 若い世代は、自分の死について考える機会があまり無いと思うので、人生会議などを行う機会を設けた方がいいと思う。
- ・ 親にエンディングノートのことを聞いてみたが、まだ考えられないみたいなことを言われた。なかなか難しい問題だと思う。
- ・ 在宅医療は家族に多大な負担を強いることもあり、家族の協力と理解がないと実現は難しいと思うが、家族に希望を伝えることは大切だと思う。

(情報発信)

- ・ 在宅医療について、知らないことが多いので、もっと情報を発信してほしい。
- ・ 健康なうちに出来ること、すべきことを教えてほしい。
- ・ 在宅医療を利用している生の声を聞いてみたいので、県の方から利用者の声を発信してもらえたら興味や理解が深まるのではないかと思う。

(その他)

- ・ 一人暮らしの場合、退職年齢まで仕事一筋でご近所付き合いもほとんどないことが多く、地域から孤立した状態で在宅医療を円滑に受けられるか心配。
- ・ 介護するときは、どのようにリフォームしたらいいのかが気になる。
- ・ 地域医療・介護制度が整ってほしい。
- ・ 介護者の息抜きの場の確保が必要だと思う。